

海外研修助成

所属：京都大学東南アジア研究所

派遣先：カリフォルニア大学サンタクルーズ校 (The University of California, Santa Cruz)

研修期間：2010年1月11日～2010年2月19日 (40日間)

受入研究者：Anna Tsing (Professor, Anthropology Department)

研修内容：グローバル化の時代における人間／非人間の関係性再編の民族誌的研究

私は第2回 GCOE 海外研修助成対象者として、アメリカのカリフォルニア大学サンタクルーズ校 (以下 UCSC) に40日間滞在しました。UCSCは1965年に設立された、比較的新しく、同時にひじょうにユニークな組織です。その特徴を二つ挙げるとすれば、ひとつめは、キャンパスを訪れる誰しも「ここが大学なのか」と驚くほどの豊かな自然に囲まれているということです。大学はもともと牧場であった土地をそのまま使っているため、広大なキャンパスは緩やかな高低差のある丘になっていて、低い方は草原のなかに建物が点在し、高い方はまるで国立公園のような、樹高数十メートルに及ぶレッドウッドの森のなかに建物が点在する、というような風景が広がっています。校内を歩いていて鹿やリスに出会うことも稀ではありません。受入研究者の Tsing 教授を含め、サンタクルーズには生命圏につよい関心をもつ人文社会系の研究者が多く在籍しているのですが、その背景にはこうしたキャンパスの雰囲気があるのかもしれない。

もうひとつは、この学校がオックスブリッジをまねてカレッジ制を導入したことです。そして、それぞれのカレッジに人文系から理工系まで様々な研究者が所属し学生もそこで生活するという文理融合に向けた先駆的な試みによって、創造的な研究を行おうとしていました。ここには、学校のシンボルにナメクジ (バナナ・スラッグ) を選ぶような、既存の枠組みに対し果敢に新しいことにチャレンジするこのキャンパスの精神が現れているように思います。残念ながら現在は、カレッジ制は寄宿舎とその関連施設だけにその名残をとどめるのみになり、学部ごとに別の建物に分かれています。この進取の精神はこの GCOE とも共有できる部分なのではないかと思えます。

今回の滞在では、到着して3日目に Tsing 教授のはからいでコロキウムでの発表の機会を得、それをきっかけに人類学部を中心とする教員やポスドク、院生たちとの交流の機会をもつことができました。滞在中は毎日、基本的に大学の図書館に通って文献を読み、論文作成に励む生活だったのですが、週のうち何回かは彼らと一緒に食事をしたり、森を歩いたりしながら、それぞれの研究プロジェクトや、アメリカと日本における人類学の現在の状況について意見しました。UCSC ではインター・ディシプリンではなく、ポスト・ディシプリンという言い方をしながら、ある 이슈が科学技術や政策にかかわる複数の現場を貫いて展開する様子を民族誌的に調査することで明らかにする、という研究が盛んに進められています。院生でも、自然と科学、政策の接点に興味をもつ人が多かったように思います。そうした観点から京大において行われてきた文理融合型の地域研究の歴史について高い関心が寄せられました。

今回の UCSC での滞在はそれほど長いものではありませんが、そこから今後の研究生活への多くの刺激を得ることができました。この研修を可能にくださった杉原先生をはじめとする GCOE の方々、受け入れてくださった Tsing 先生ら UCSC の方々に心から感

謝いたします。

写真：James Clifford 教授、Anna Tsing 教授との昼食
大学図書館に向かう途中の風景